

2022年12月短答後配信

23目標12月短答後
論文式
学習法セミナー

成績の決まり方 各科目のポイント

担当：平林講師[財理・個別相談]

「論文で必要な力は？」

「論文の成績はどのように決まるか？」

「合格者はテキストをどのように使っているか？」

【配付資料】

- 本レジュメ
- 2022合格者インタビュースライド(2022年11/27実施)
- 2019-2021合格者からのメッセージ集(模試・本試験成績等含む)
- 2021本試験合格者答案(素点・偏差値情報含む)

本日の内容

ゴールを知る

必要な力[全般]	4
成績の決まり方とポイント	5
各科目のポイント一覧	6
スケジュール目安	7
講義・教材の位置付け	8
形式面のルール・よく使う接続詞	9・10
論文答練の振り返り方	11

理論科目 問と答えの対応関係分析

5月短答生 3月末又は全国模試2にかけての目標	13
各科目のポイント(合格者のテキスト一部紹介)	15

監査論

租税法

管理会計論

財務計算

ミスの分析(インプット不足・時間切れ・やらかしミス)	27
----------------------------	----

財務理論

企業法

経営学

大問ごとの偏差値が凹む原因例	31
----------------	----

★後日、12→8合格/5→8合格/論文リスタート合格など
状況別で合格者のテキスト・教材写真集配布予定

★後日、会計学基準集の使い方について
セミナー配信予定

- 2022合格者インタビュースライド(2022年11/27実施)
- 2021本試験合格者答案(素点・偏差値情報含む)
- 2019-2021合格者からのメッセージ集(模試・本試験成績等含む)

様々な合格者の詳細な体験記・実際の本試験答案・成績・相談時メモなどを収録。

1点でどれだけ偏差値が動くか、どの程度書くと合格ラインに達するか、具体的なゴールの把握に活用する。

★2022年合格者答案は2・3月頃配付予定

会計学午前(管理会計)第2問

問題1

問1

名称: 機能別組織

問2

A事業部の売上高利益率は17%である。B事業部の売上高利益率は31%である。したがって、B事業部の利益が収益性が高いといえる。

問3

事業部長はパフォーマンスを向上させるために業績目標を設定するべき責任を負うが、同業他社との比較を行うことでB事業部自体の継続についての適否を判断しようとしている。

問4

問1

ア	イ	ウ
206,500,000 円	円	65,950,000 円

問2

C事業部は経営レバレッジ係数が3.34であるが、D事業部は6.77であるため、D事業部の利益変動率が大きい。

問5

D事業部は使用資本が多額であるため、総資本回転率も追加的に注視すべきである。

素点 3/50

問別得点(調整後) 20.8/50

偏差値 41.6 (財務会計で挽回)

井会2-F 短答上級生5-8月

＜本人談＞
隣の人の電卓の音が大きく、気を取らされた。
(模試の時会場受験)

メッセージ集「渡辺さん(仮名)」

問1

①	②	③
866,282 円	276,347 円	-99,814 円

問2

拡張する場合	拡張しない場合
754,519 円	663,775 円

したがって、工場を拡張(すべきである・すべきでない)。いずれかを丸印で囲むこと。

問3

大工場建設を選択する場合	小工場建設を選択する場合
493,162 円	382,526 円

したがって、(大工場・小工場)を建設すべきである。いずれかを丸印で囲むこと。

問4

本問題では、新技術の開発による製品の陳腐化のリスクが考慮されていない。

メッセージ集 2022.3.23配付版 早稲

鈴木さん(仮名)の全国模試と本試験成績

★鈴木さん(仮名)の本試験答案は、本試験答案抜粋レジュメのうち以下を参照。
会2-A、短答1-C、短2-D、金2-D、短答1-B

鈴木さん(仮名)の全国模試と本試験成績

偏差値

完全5科目のため、全国4時点で粗点Eは折り返し済

注8所2消2

素点 394.3

偏差値 51.28

394.3 - 49.28 = 52.2848

令和3年度 公認会計士試験論文試験成績通知書

令和3年度 公認会計士試験論文試験成績通知書

科目別得点

科目区分	会計学	税務学	経営学	経済学	民法	統計学	総合
得点率	54.88	50.75	42.25	50.10	50.00	-	53.10
得点	25.16	22.84	19.11	22.55	22.50	-	23.99
調整得点(調整後)	25.16	22.84	19.11	22.55	22.50	-	23.99
順位	79462	1,10062	1,26642	1,32162	43062	-	1,00962

減税6/84所2

Lost 1個

理全編見

和「経営レバレッジ係数」を拡大した。

論文式試験 必要な力[全般](大部分は短答対策と共通)

★ テキストや問題を形式的に何度も「回転」するのではなく、
その時々で「どんな力を伸ばすか?」目的を持って取り組む。

Input面

- テキストについて、理解している(比較ができる、具体例が説明できる)。
- テキストを閉じた状態で、基本的な内容を想起・説明できる。

★ 「知っている」「見ればわかる」では足りない。
問題を解いた後、「テキストの周辺論点」まで想起できるかを意識。

Output面

- 問題文を読み、テキストのうち、どこが問われているか掴める。
★ アウトプットを通じて、テキストのインプットの穴発見。
- 問題に対して、素直に「過不足なく」答えられる。
- 基準集が使える(監査論、租税法、財務理論、企業法)。
- 得点に繋がられる。(試験前のピーク合わせ、時間配分・難易度の読み取り、読み飛ばしなどのやさしみス対策、部分点獲得等)

論文式試験 成績の決まり方とポイント (合格者答案参照)

計算・理論科目共通

偏差値56以上の科目は科目合格制度で2年間免除。

ex. 会計学第3問 素点20点/60点 偏差値50 → 60×0.5 → 調整後得点30/60点

- 大問ごとに得点比率(≒偏差値)が付き、大問ごとの配点に応じて加重される。時間配分に注意。

難易度にもよるが、大問1つについて、1時間を大きく超えないように。管理は20~25分×4問など。

大問ごとに平均を死守する。

- 解答用紙・解答欄取り違えに注意。指差し点検。

★素点ゼロの大問は、得点比率もゼロとなる。必ず素点1点は確保。特に、管理会計第2問や企業法。

★大問合計偏差値40未満の科目がある場合、足切りとなる(大問ごとではなく、科目全体の合計)。

計算科目

- 比較的平易な箇所を正確性を重視して正答すれば、合格点に届く。

時間配分に注意。やらかしミスの傾向を把握して対策。

理論科目

- 問題文の意図を読み取り、素直に答える。

「答練が当たった!」「もらった!」等思った時ほど、要注意。

論点を早合点しない。問われていることを見定めてから書き始める。

★答練で手応えと結果に乖離がある場合、「論点ズレ」の可能性あり。分析して講師と相談。

- 解答行数が余ったとしても、余事記載(問われていないことまで記述)で埋めない。

問いに対して、素直に丁寧に、「過」不足なく答える。

- 「～の観点から」「～に照らして」「～を踏まえて」「～と比較しながら」などの指示に従う。

- 応用的な問題は、時間を掛けすぎないように、時計を見てから解き始める。

- 基準集が使えるようにする。

論文式試験 各科目のポイント一覧

★2日目は、「会計学」という300点満点の科目として扱われる。

【1日目午前】

監査論(100点) 10:30-12:30

- ★問題文の題意を掴み、テキストの内容を引き出す。
- ★問題文を引用しつつ、素直に過不足なく答える。
- ★典型論証は納得した上で説明できるように。
- ★基準集を引けるように。
事例問題は論文対策講義や答練で思考プロセスを押さえ、答練等でさらに試す。

テキストで基礎概念・手続の流れを理解。
目次を見て論点が思い出せるか。

初年度生・5月生も、論文対策講義を活用。
(ex.3月末にかけて、岡田講師のインプット強化版受講
→5月生以外は、～5月・7月などに
適宜大橋講師の過去問演習版受講)

【2日目午前】

会計学午前[管理会計論] (100点) 10:30-12:30

- ★テキストの基礎概念・計算処理を理解し、閉じて説明できるように。
- ★時間配分に注意。大問ごとに平均を死守。
- ★計算...テキストを思い浮かべながら資料を整理。
難易度の易しい箇所を正確に解く。
- ★理論...テキスト記載の定義・理屈を説明できるように。

目次を見て論点が説明できるか。
論文重点出題項目以外も、テキスト記載論点は押さえる。特に財務情報分析と資金管理。

初年度生も管理論文対策講義を活用。
(ex.インプット岡本講師版受講
→5月生以外は、～5月・7月などに
適宜多田野講師の過去問演習版)

【3日目午前】

企業法(100点) 10:30-12:30

- ★問題文から論点・条文に気づけるか？
- ★条文を挙げられるか？
- ★適切に論理が組み立てられるか？
原則→問題の所在→規範定立→あてはめ

答練の出題範囲に合わせて、
テキストの精読を進める(5月生も実施)。

特に、太枠、絵のあるところ、論点。

問題集は、問への答え方・論理の組み立て方の参考とする。
※年明け以降、論点リストを配布。

▼会計学午後は3時間。第3問60点・第4問70点・第5問70点で200点満点。

【1日目午後】★12→8月生/論文リスタート生は、租税計算を稼ぎ科目にする。5月生は基礎論点で守る。

租税法(100点) 14:30-16:30

理論40点、計算60点(固めると安定的に稼げる)

- ★法人税テキスト①が最重要。

次に、所得税・消費税の基礎論点

(上級講義8までの論点)。

3月末頃までテキスト・トレーニングでアクセスの予習以降は、基本的にアクセス・答練で演習。

問題とテキストを行き来し、想起・暗記。やらかし対策。

- ★総合合問題の形式に慣れる(アクセス・答練)。

- ★直前答練・模試で、膨大な資料から簡単な解答箇所を拾う練習。

- ★理論...まずは計算。5月生は、7月頃から本格化。
計算の知識を土台として、
理論テキスト・答練での出題箇所を
要約条文へ一元化しつつ典型を押さえる。

【2日目午後】

会計学午後[財務会計論] (200点) 14:30-17:30

財務理論(第3～5問) 論文で最も配点が高い。
一度固めるとずっと稼げる。

- ★確認問題の論点について、理屈部分が説明できる。
処理部分について、基準集が引ける。
- ★キーワードを使って過不足なく答えられる。
- ★問題文を引用しつつ、素直に答える。
- ★応用的な問題で、基礎概念を使いつつ部分点獲得。

財務計算(第3・5問の一部)

- ★時間配分に注意。難易度の易しい箇所を正確に解く。
アクセスや答練で、時間配分の練習。
- ★理論テキストと紐付けて押さえる。
- ★最後の2週間ほどで、問題演習と合わせてテキスト1周確認により、ピークを合わせる。模試前に試す。

【3日目午後】

経営学など選択科目(100点) 14:30-16:30

戦略論/組織論 50点
ファイナンス(主に計算) 50点

- ★ファイナンス(講義10回分)
レベルIのような難易度の易しい計算について、
正確に解けるように。
問題集や答練で理解不足を発見したら、
質問などで解消。

- ★理論(4+3で全7回ほど)
人名がヒントとして与えられる。キャラ付けして
関連用語を想起できるように。
用語の意味を理解し、ある程度キーワードを
使って説明できるように。

12月短答以降スケジュール目安

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

Input強化

テキストの内容・基礎的な概念を理解し、口頭で説明できる状態に。初年度生も、租税法以外の論文対策講義を適宜活用（ゼロ円登録）。

上級生は、インプット強化にWeb論点別講義を活用。（財理・監査論は全て受け直してもOK）

Output強化

Outputを通じて、Inputの穴を探す。足りない力を分析。

問題文の読み取りと素直な答え方、部分点の取り方等を身に付ける。

各種アクセス/答練のほか、3月末にかけて管理・監査論テキストチェックゼミや論文対策講義を活用。（気になる科目はガイダンスとして各1回目冒頭を受講）

正確性・スピード強化。

★4月までのアクセス・答練は、出題範囲有。
5月短答生も計算力アップ・理解強化のため適宜活用。

論文アクセス

財務 計算
管理 会計論
論文アクセス
前半10回

2月頃
租税法
アクセス
(先取りアクセス
調整中)

論文答練

基礎答練 3回
(企業法は4回)
★問題文の読み取り、
問への素直な答え方
を身に付ける

応用答練 2回
★応用的な問題での
部分点の取り方、
時間配分の練習等

全大問で凹みを均す。

4月末 論文公開模試 第1回 (5月短答生は短答後に活用)

理論補強答練1・2 (5月短答生は短答後に活用)

5/28(日)5月短答式試験

論文直前講義 各1回

財計・管理・租税計算アクセス後半 論文直前答練1・2

6月末 論文公開模試 第2回

論文直前答練 3 (監査企業のみ4回目あり)

回転期 インプット詰め&アウトプット力維持/強化

会計学計算・・・2週間以内に論点1周、
その他は7日～2週間以内に論点1周、暗記は毎日など。

8/18- 論文式試験

★全科目、テキストを大事に。納得感を持てるか。
テキストを閉じて、想起・説明できるか。
財理は2～6章など受け直してもOK。
★4月までのアクセス・答練は、**範囲指定あり**。
準備して受験し、インプット・アウトプット双方強化。

【5月短答を受験する場合】 **5月短答・8月論文ネット出願**
2/6～2/27メ切

3月末までは、理屈重視。
状況に応じて論文アクセスなど活用。
4月に入ったら、論述対策や、租税法・選択科目はストップ。
短答知識暗記。
状況別のスケジュールについては12/12(月)セミナーで詳述。

【5月短答を受験する場合】
3月末までは理屈重視
4月頃～ 回転期 (短答向けの知識暗記)
3月後半 5月短答向け 短答直前答練1
4月頭 直前答練2 (照準を合わせる)
5月頭 短答全国模試
5月2週目頃 直前答練3

全科目、
満足水準まで持っていけるか？

講義・教材の位置付け

【租税法 入門・上級講義】

入門9回(法人税基礎①)

上級1~8回 所得税・消費税・法人税基礎②

上級9~15回 各税法応用論点

上級16~18回 理論部分(5月生は5月短答後)

【経営学 講義】

ファイナンス部分10回

戦略論・組織論部分 4月までに4回ほど・6月中までに3回ほど

★5月生は、ファイナンス部分10回か、
テキスト①の4回目まで受講、もしくは5月短答以降に受講など。

論文対策講義 ★初年度生の場合…手続を行えば視聴可能。

インプット強化の関西管理・関西監査論など適宜活用。手が回っていなければアクセスと答練優先。

【論文対策講義】(目的に合わせて適宜受講)

- 関東収録版:主にアウトプット強化のための過去問演習・解説など。財務計算は本年からテキストとの紐づきなど盛り込む。

通常の答練やアクセスが優先。租税は論文受験経験者向けの理論対策。

※特に財務理論は応用的な問題が多いため、テキスト優先。見るとしても、あくまで参考程度。

- 関西収録版:管理会計・監査論は、主にインプット強化。

論文の学習法・テキスト理解に悩んでいる受講生向け。

※論文対策講義について、詳しくは、各講義冒頭を受講。

【論文基礎答練】(★5月短答生もできれば活用)

形式に慣れる。問いに素直に答える練習。

【論文応用・直前答練・全国模試】

時間配分の練習。

難易度の高い問題のうち、取るべき箇所の見極め。

部分点を取る練習。

※租税・経営は、応用答練から理論部分を出題。

【論文アクセス】(★財務・管理は5月短答生もぜひ活用する)

[財務計算・管理(理論含む)・租税計算]

形式に慣れる。反復して復習。

取るべき箇所の見極め・メンテナンスに活用。

苦手な論点の強化に、難易度A部分を使う。

理論補強答練(4月頃要手続・会計学基準集プレゼント有り)

※Web論点別講義…上級生コースに付属 インプット強化のための講義。

財務理論全87時間、監査論40時間など。企業法はピンポイントで活用。

- 企業・租税・経営…通常の答練と同様の難易度・重要性。

- 財務理論・監査論

応用的・論点横断的な問題が多い。自習時の視点を新たにしたり、理解強化に活用。

財理・監査論は通常答練が優先。

5月生は短答後、本試験までに
参考として使う。

形式面のルール

×

× 3行以上の長文

(主語述語が崩れる。文意が伝わりにくくなる。)

× 箇条書き

× 体言止め 「～だから。」 「～という考え方。」

× 段落頭の一字下げをしていない

Aについては、～～であるため、～と
考えられる。…

× メールのように、文の途中で不適切な改行

Aについては、～～であるため、
～と考えられる。……………、
……………。

◎

一文一意。

1.5～2行ほどの短い文章を積み上げる。

「～だからである。」
「～という考え方である。」

段落が1っだけでも1字空ける

Aについては、～～であるため、～
と考えられる。…

よく使う接続詞

★…特によく使うもの

理由

～であるため、★
 ～。そのため、★
 ～であることから、★
 ～。そこで、★

【流れをよくするポイント】

「ため」が2回続く場合、
 どちらかを「～ことから、」に変える。

逆接

しかし、★
 たしかに、～。しかし、

【注意】

「なので」 「～だ。」は使わない。

文末は
 「～である。」「～と考えられる。」など。

順接

～。また、…。さらに、…。★
 第一に、第二に、第三に、

規範定立・あてはめ

～すべきと考えられる。この点、～★

論文答練の振り返り方

★難易度の高い集計箇所まで
全て復習する必要はない。
同じ論点が難易度低い問題として
出題された場合に正解できるか、
テキストで論点確認など。

計算科目

- ① 難易度A等で取れなかった箇所について、分析。
 - インプット・メンテナンス不足?
 - アウトプット面 難易度の見極め?スピード不足?やらかしミス?
- ② 正解した箇所についても、以下振り返る。
 - 解答時不安に感じた箇所、やらかしミスが起こりそうだった箇所はないか?
 - 下書きをよりシンプルにできないか?
 - 飛ばすべき箇所ではなかったか? (難易度が高い・集計量が多い)
- ③ 大問ごとに平均点との素点差を確認。

★偏差値45などでも、
やらかしミスをなくすと偏差値52を
優に超える場合が多い。

理論科目

- ① 論点ズレした箇所は、問いと模範解答の対応関係を分析。次ページ。
なぜこの解答となっているのか?問題文に照らして考える。
- ② 空欄にしてしまった箇所は、部分点が取れなかったか? 問題文のヒントを探す。ex.「～に着目して」
- ③ 書けた箇所について、もう少しコンパクトに答えて他の箇所へ時間が割けなかったか分析。

余事記載していないか?

★自分の手応えと成績が乖離している場合、分析して講師へ相談。

理論科目 問いと答えの対応関係分析

ex. 問題で何が問われているか、どのように書き始めればよいかわからない。
自分では書けたと思って、全く点数が入っていないことがある。



問題文が読み取れていない・指示に従っていない可能性が高い。

解答例と問題文をよく見比べる。答練解説を熟読し、
問題文から解答例へどのように引用されているか、分析する。

ex. 「～の観点から」
(特に監査論・企業法と、財務理論の応用的な問題)

手応えとの乖離の原因がわからないものについて、
自分で分析した答案を講師に見せて相談する。

5月短答生 3月末までの目標例① 短答・論文共通科目

★短答データリサーチで、正解率の高い問題の獲得状況を分析。
インプット・アウトプット面双方の不足している力を分析。

短答・論文共通科目

必ず

- 3月末までに各科目テキストを一通り復習。財務・管理は論文アクセスの日をペースメーカーとしたい。
 財理・監査・企業法は、論文答練の出題範囲も参考にする。→Web School「教材」欄に範囲表

- 財務計算・管理について、これまでの教材で未消化のものがなければ、
 3月末まで論文アクセス1~10回を短答対策向けにも活用。

難易度Aの箇所について、自信を持って解けるように。短答アクセスよりも簡単なものも多い。

★管理会計については、問題反復よりも、【テキストが説明できること】を重視。

テキスト・トレーニングの復習と、岡本講師論文対策講義をインプット強化に活用。

アウトプット強化に、安達講師テキストチェックゼミを活用（アーカイブで自問自答するもの有り）。

- 余裕がある科目は、論文基礎答練受験。計算はアクセス優先。

余裕がなければ、理論科目について、問題文を読み書くべきことを思い浮かべる・キーワードを書き出すなど。

※企業法は他の科目に比して、短答と論文で必要なアウトプット能力が大きく異なる。

短答に向けてどの程度強化が必要か、早急に講師に相談。

出題範囲に合わせてテキストを精読し、理解強化。太枠・絵・論点。

※企業法の答練受験は、論点を考える・条文を引くところまでは自力で取り組む。

論証の表現は、答練中テキストを参照して書いてもOK（企業法のみ。財理監査は自力。）。
 問題文の読み取り・条文操作・解答作成のマナー/作法に慣れておく。

- 短答科目の論文応用答練2回…企業法・監査論についてはテキストの理解に役立つため、**応用答練まである程度**
 これまでの教材で未消化のものがなければ、4月頭までにテキスト復習に活用。**テキスト1周**
 その他の未受験の基礎答練・応用答練は、6月末までには受講。

★財務・管理に苦手意識がないなら、応用答練まで全て受けてもOK（租税・経営以外）。

残り5月短答以降。

できれば

5月短答生 3月末までの目標例② 租税・経営

★財務・管理が優先。

財務・管理に強く苦手意識があり、5月短答にどうしても特化したい場合は、
5月短答後に受講開始。

租税・経営

※5月短答後、5月後に租税法を開始する受験生向けに
短期集中講義を配信（上級8回目までと同様の内容）。

租税法

★財務・管理に苦手意識がないなら、上級全て受けてもOK。

3月末までに、無理の無い範囲で**基礎マスター9回**もしくは**上級8まで**受講（合計17回か途中まで）。
やる気がどうしても出ない時間帯などに受講。

5月短答後、残りの上級8までと、理論部分3回を受講。
全国模試2までに、アクセス⇄テキストの反復。基礎答練受験・復習。

↳ 短答科目のinput
講義を受講して
理解強化に充ててもOK.

経営学

3月末までに、無理の無い範囲で**ファイナンス講義4回程**もしくは**10回まで**受講。租税法が優先。

★講義優先順位のイメージ

租税基礎マスター9回 > 租税上級4回 ≧ 経営4回 ≧ 租税上級5～8 = 経営5～10回

最重要

講義の【翌日】に、章末問題・テキスト数値例を復習。

★当日よりも、翌日少し取り組む方が定着に◎

短答科目に余裕があれば、問題集レベル1まで。

睡眠もあえて狭む。

5月短答後、残りのファイナンス講義と、理論部分全7回を受講。章末・レベル1が解けるように。

監査論

必要な力

- ★問題文の題意を掴み、テキストの内容を引き出す。
- ★問題文を引用しつつ、素直に過不足なく答える。
- ★典型論証は納得した上で説明できるように。
- ★基準集を引けるように。

詳細は、【Youtube動画】▶
論文監査論セミナー視聴
TAC梅田校 監査論 岡田講師
(論文対策講義 関西収録版担当)



論文監査



具体的な進め方

- テキストで基礎概念・手続の流れを理解。
目次を見て論点が思い出せるか。
- 事例問題は論文対策講義や答練で
思考プロセスを押さえ、答練等でさらに試す。
- 初年度生・5月生も、論文対策講義を活用。
(ex. 3月末にかけて、岡田講師のインプット強化版受講
→ 5月生以外は、5月までや7月などに、大橋講師の過去問演習版受講)

【ポイント】

財理も同様。

- 答練時、典型論点論証を想起する際に、
論文問題集の見開きではなく、テキストが先に脳裏によぎる状態。
- テキストの基礎知識が抜けると、
論点に気づけなくなり論ズレが起きやすい。
ざっくりページ見開きの構成が思い浮かぶ状態は保つ。
テキスト目次活用も○(詳しくは岡田講師論文対策講義)。

【解答作成時の注意点】

問題文は、小問ごとではなく、大問ごとに一通り確認。問題全体の流れ・出題者の意図を掴む。
全体として何の論点か？

※本試験過去問について、出題の趣旨を監査審査会HPで確認。

一問ごとバラバラで解くと、意図が掴めず論ズレ・解答重複が起きやすい。

★後ろの方の問題文が、冒頭の問題のヒント・誘導になっていることがある。

租税法 講義・教材の優先順位

- ★計算9回+上級15回(全24回)のうち、
基礎マスター9回・上級8回までで取り扱っている論点は優先的に固める。
 理論部分は、上級最後の3回で実施(上級16-18)。

※租税上級講義9~15 計算応用論点について

5月短答生は、状況によっては受けない、又は、他の科目も含め積み残しがなくなり
 租税アクセスが解き直しやすくなってから、3月までもしくは8月頭までを目途に
 理論対策の意識で、やる気が出ない時間帯に受け進めるなど。

テキスト以外の教材の優先順位

アクセス1~4>基礎答練>アクセス5~9>アクセス10、11、12
 >応用/直前答練/全国模試 計算A論点>答練・全国模試 計算B論点

※応用・直前答練・全国模試の計算部分を全く見ないというのは危険。

5月生は、
5月以降に

膨大かつ難しそうな資料から、簡単な箇所を取る練習が必要。

ex. 全国2までに主にアクセス・テキスト反復



全国2後、直前答練を時間配分の演習として使用

- ★応用以降の租税理論答練は全て使う(応用、模試、理論補強答練、直前答練)。
 5月生…理論の本格的な対策は7月以降でもOK。

租税法 合格者のテキスト (本試験偏差値59論文リスタート生)

30万円未満

XI. 中小企業等の特例減価償却資産の損金算入

1. 意義

中小企業等については取得価額が10万円以上30万円未満の減価償却資産について、取得価額全額の損金算入が認められる。

2. 適用要件

次の要件を満たした場合には、その減価償却資産の取得価額相当額を一時に損金の額に算入することができる。

(1) 適用法人：青色申告書を提出する中小企業者(①)農業協同組合等で、常時使用する従業員数が500人以下の法人(中小企業者等)

(2) 適用要件：取得価額10万円以上30万円未満の減価償却資産を事業の用に供すること

(3) 経理要件：取得価額相当額を事業供用事業年度に損金経理すること

(4) 限度額：事業年度あたり以下の金額に達するまでの取得価額の合計額

$$300\text{万円} \times \frac{\text{その事業年度の月数}}{12}$$

300万円まで
20万円まで300万円以下30万円未満(70)

(注) 中小企業者

期末資本金1億円以下の法人のうち一定の法人をいう(詳細は章末の補論参照)。

取得価額30万円未満の減価償却資産まとめ

IX. ~XII. をまとめると、以下のとおりである。

取得価額	中小企業者等 (資本金1億円以下、従業員500人以下)	中小企業者等以外
30万円未満	全額損金算入 (年300万まで)	通常償却
20万円未満	通常償却	一括償却 or 通常償却
10万円未満	全額損金算入	一括償却 or 通常償却

全額損金算入 (年300万まで)

全額損金算入

通常償却

一括償却 or 通常償却

通常償却

一括償却 or 通常償却

全額損金算入

全額損金算入

中小企業者等
(資本金1億円以下、従業員500人以下)

中小企業者等以外

- 70 -

3. 青色申告の特典 (127条、130条)

青色申告法人の特典には、例えば、次のようなものがある。

種類	特典の内容
法人税	(1) 次期金の翌期以降10年間の繰越 (2) 繰越金の買入に基づく更正 (3) 各種の特例優遇又は割増償却 (4) 各種の準備金等の損金算入 (5) 各種の法人税額の特例控除

3. 青色申告の特典 (127条)

青色申告法人に、以下の権利のいずれかに該当する事実があると認められる場合には、その該当することになった事業年度まで遡及してその承認が取り消される。

(1) 帳簿書類の提出、記録又は保存が法令で定めるところに従って行っていない場合

(2) 帳簿書類について税務署長が行った必要な指示に従っていない場合

(3) 帳簿書類に取引の全部(一書)を記載し、提出し、提出し、その記載事項の全体についてその実性を明らかにする資料を提出しなかった場合

(4) 確定申告書その他の提出期限までに提出しなかった場合

① 取得価額30万円未満の減価償却資産

② 取得価額30万円以上300万円未満の減価償却資産

③ 取得価額300万円以上の減価償却資産

④ 取得価額30万円未満の減価償却資産

⑤ 取得価額30万円以上300万円未満の減価償却資産

⑥ 取得価額300万円以上の減価償却資産

⑦ 取得価額30万円未満の減価償却資産

⑧ 取得価額30万円以上300万円未満の減価償却資産

⑨ 取得価額300万円以上の減価償却資産

⑩ 取得価額30万円未満の減価償却資産

⑪ 取得価額30万円以上300万円未満の減価償却資産

⑫ 取得価額300万円以上の減価償却資産

⑬ 取得価額30万円未満の減価償却資産

⑭ 取得価額30万円以上300万円未満の減価償却資産

⑮ 取得価額300万円以上の減価償却資産

⑯ 取得価額30万円未満の減価償却資産

⑰ 取得価額30万円以上300万円未満の減価償却資産

⑱ 取得価額300万円以上の減価償却資産

⑲ 取得価額30万円未満の減価償却資産

⑳ 取得価額30万円以上300万円未満の減価償却資産

㉑ 取得価額300万円以上の減価償却資産

㉒ 取得価額30万円未満の減価償却資産

㉓ 取得価額30万円以上300万円未満の減価償却資産

㉔ 取得価額300万円以上の減価償却資産

㉕ 取得価額30万円未満の減価償却資産

㉖ 取得価額30万円以上300万円未満の減価償却資産

㉗ 取得価額300万円以上の減価償却資産

㉘ 取得価額30万円未満の減価償却資産

㉙ 取得価額30万円以上300万円未満の減価償却資産

㉚ 取得価額300万円以上の減価償却資産

㉛ 取得価額30万円未満の減価償却資産

㉜ 取得価額30万円以上300万円未満の減価償却資産

㉝ 取得価額300万円以上の減価償却資産

㉞ 取得価額30万円未満の減価償却資産

㉟ 取得価額30万円以上300万円未満の減価償却資産

㊱ 取得価額300万円以上の減価償却資産

㊲ 取得価額30万円未満の減価償却資産

㊳ 取得価額30万円以上300万円未満の減価償却資産

㊴ 取得価額300万円以上の減価償却資産

㊵ 取得価額30万円未満の減価償却資産

㊶ 取得価額30万円以上300万円未満の減価償却資産

㊷ 取得価額300万円以上の減価償却資産

㊸ 取得価額30万円未満の減価償却資産

㊹ 取得価額30万円以上300万円未満の減価償却資産

㊺ 取得価額300万円以上の減価償却資産

㊻ 取得価額30万円未満の減価償却資産

㊼ 取得価額30万円以上300万円未満の減価償却資産

㊽ 取得価額300万円以上の減価償却資産

㊾ 取得価額30万円未満の減価償却資産

㊿ 取得価額30万円以上300万円未満の減価償却資産

㊿ 取得価額300万円以上の減価償却資産

章扉ページに
間違いやすいところを付箋メモ

ア②などミス内容をテキストへ一元化

ア② アクセス租税法 (第7回) 解答

【解説】 (45分)

【資料】

1. 全般的な事項

(1) 当社の事業年度は、設立以来、4月1日から翌年3月31日までである。

(2) 当社は、設立以来継続して適法に青色申告書を提出する内国法人で、精製機油の製造・小売を主たる事業とする株式会社である。

(3) 当社は、設立以来、同業会社に該当しない。

(4) 当社の当期末における資本金の額は、500,000,000円である。

(5) 当社は、消費税及び地方消費税の課税標準として販売方式を採用している。問題文中の取引金額は、全て税抜の金額である。

(6) 前期末の税務申告について、申告調整は適正になされている。

(7) 問題文中の住民税は、道府県民税及び市町村民税である。また、事業税等には特別法人事業税が含まれている。

(8) 増減処理は、問題に指示のあるものを除き、1円未満の端数を切り捨てること。

① 全般的な事項

② 当社の事業年度は、設立以来、4月1日から翌年3月31日までである。

③ 当社は、設立以来継続して適法に青色申告書を提出する内国法人で、精製機油の製造・小売を主たる事業とする株式会社である。

④ 当社は、設立以来、同業会社に該当しない。

⑤ 当社の当期末における資本金の額は、500,000,000円である。

⑥ 当社は、消費税及び地方消費税の課税標準として販売方式を採用している。問題文中の取引金額は、全て税抜の金額である。

⑦ 前期末の税務申告について、申告調整は適正になされている。

⑧ 問題文中の住民税は、道府県民税及び市町村民税である。また、事業税等には特別法人事業税が含まれている。

⑨ 増減処理は、問題に指示のあるものを除き、1円未満の端数を切り捨てること。

⑩ 全般的な事項

⑪ 当社の事業年度は、設立以来、4月1日から翌年3月31日までである。

⑫ 当社は、設立以来継続して適法に青色申告書を提出する内国法人で、精製機油の製造・小売を主たる事業とする株式会社である。

⑬ 当社は、設立以来、同業会社に該当しない。

⑭ 当社の当期末における資本金の額は、500,000,000円である。

⑮ 当社は、消費税及び地方消費税の課税標準として販売方式を採用している。問題文中の取引金額は、全て税抜の金額である。

⑯ 前期末の税務申告について、申告調整は適正になされている。

⑰ 問題文中の住民税は、道府県民税及び市町村民税である。また、事業税等には特別法人事業税が含まれている。

⑱ 増減処理は、問題に指示のあるものを除き、1円未満の端数を切り捨てること。

⑲ 全般的な事項

⑳ 当社の事業年度は、設立以来、4月1日から翌年3月31日までである。

㉑ 当社は、設立以来継続して適法に青色申告書を提出する内国法人で、精製機油の製造・小売を主たる事業とする株式会社である。

㉒ 当社は、設立以来、同業会社に該当しない。

㉓ 当社の当期末における資本金の額は、500,000,000円である。

㉔ 当社は、消費税及び地方消費税の課税標準として販売方式を採用している。問題文中の取引金額は、全て税抜の金額である。

㉕ 前期末の税務申告について、申告調整は適正になされている。

㉖ 問題文中の住民税は、道府県民税及び市町村民税である。また、事業税等には特別法人事業税が含まれている。

㉗ 増減処理は、問題に指示のあるものを除き、1円未満の端数を切り捨てること。

㉘ 全般的な事項

㉙ 当社の事業年度は、設立以来、4月1日から翌年3月31日までである。

㉚ 当社は、設立以来継続して適法に青色申告書を提出する内国法人で、精製機油の製造・小売を主たる事業とする株式会社である。

㉛ 当社は、設立以来、同業会社に該当しない。

㉜ 当社の当期末における資本金の額は、500,000,000円である。

㉝ 当社は、消費税及び地方消費税の課税標準として販売方式を採用している。問題文中の取引金額は、全て税抜の金額である。

㉞ 前期末の税務申告について、申告調整は適正になされている。

㉟ 問題文中の住民税は、道府県民税及び市町村民税である。また、事業税等には特別法人事業税が含まれている。

㊱ 増減処理は、問題に指示のあるものを除き、1円未満の端数を切り捨てること。

㊲ 全般的な事項

㊳ 当社の事業年度は、設立以来、4月1日から翌年3月31日までである。

㊴ 当社は、設立以来継続して適法に青色申告書を提出する内国法人で、精製機油の製造・小売を主たる事業とする株式会社である。

㊵ 当社は、設立以来、同業会社に該当しない。

㊶ 当社の当期末における資本金の額は、500,000,000円である。

㊷ 当社は、消費税及び地方消費税の課税標準として販売方式を採用している。問題文中の取引金額は、全て税抜の金額である。

㊸ 前期末の税務申告について、申告調整は適正になされている。

㊹ 問題文中の住民税は、道府県民税及び市町村民税である。また、事業税等には特別法人事業税が含まれている。

㊺ 増減処理は、問題に指示のあるものを除き、1円未満の端数を切り捨てること。

㊻ 全般的な事項

㊼ 当社の事業年度は、設立以来、4月1日から翌年3月31日までである。

㊽ 当社は、設立以来継続して適法に青色申告書を提出する内国法人で、精製機油の製造・小売を主たる事業とする株式会社である。

㊾ 当社は、設立以来、同業会社に該当しない。

㊿ 当社の当期末における資本金の額は、500,000,000円である。

㊿ 当社は、消費税及び地方消費税の課税標準として販売方式を採用している。問題文中の取引金額は、全て税抜の金額である。

㊿ 前期末の税務申告について、申告調整は適正になされている。

㊿ 問題文中の住民税は、道府県民税及び市町村民税である。また、事業税等には特別法人事業税が含まれている。

㊿ 増減処理は、問題に指示のあるものを除き、1円未満の端数を切り捨てること。

ミス内容・復習回ごとの振り返りを付箋メモ

★アクセス解き直し・テキスト例題に慣れてきてから、
理論講義3回分受講(上級16・17・18)。

租税法 理論の学習法

計算を固めてから本格化。
まずは、出やすい条文を知る。

①右画像のように、問題出題箇所を
「要約条文」へマーク。

- 理論テキスト例題
- 全9回の答練理論部分
(応用2回、全国2回、直前3回、理論補強2回)

どのように出ていたか?も思い出せるように、
「応1」など出題回も書く。

▼直前期は要約条文がメインの学習教材となる

理論
答練・テキスト例題での
出題箇所・出題回もメモ

第二目 資産の評価損

33条 (資産の評価損の損金不算入等)

(1) 資産の評価損は、原則損金不算入

(2) 災害による著しい損傷等、特別事由が生じた場合には損金算入 (損金経理)

※ 固定資産の減損損失は、原則損金不算入 (特別事由に該当する場合は除く)

第三目 役員の給与等

34条 (役員給与の損金不算入)

(1) ①定期同額 ②事前確定届出 (株式、新株予約権、特定譲渡制限付株式含む) ③業績連動に該当しないものは損金不算入 (業績連動に該当しない退職給与、使用人兼務役員除く)

(2) 不相当に高額な部分は損金不算入

(3) 事実を偽装隠ぺいして支給したものは損金不算入

(4) 給与には、債務免除その他経済的利益を含む

(5) 業績連動給与の定義

(6) 使用人兼務役員の定義

36条 (過大な使用人給与の損金不算入)

②答練解き直し&要約条文の通読で、典型条文の位置把握。

- アクセス・テキスト反復に慣れて多少余裕が出てきた頃から(7月末頃からなど)、
毎日答練の理論部分を1回分解き直す。
(法令基準集を使い、該当条文を探して条文番号を書き出す。15分ほどで1回分目安。)

- 毎日要約条文をこまめに通読(5~15分ほど)。マーカー箇所とゴシック体中心。出やすい箇所。
どのような問題だったか?イメージ。→初めて見る論点でも、あたりが付けられるようになる。

- 計算自習時、気になったら根拠条文を確認。

※消費税法は基準集目次が簡素。直前期は原文を見慣れておく。

管理会計論

詳細は→ 【Youtube動画】
論文管理会計論セミナー視聴。

TAC梅田校 管理会計論 岡本講師
(論文対策講義 関西収録版担当)



テキストの重要概念・計算目的・長所短所などを説明できるようにする。
テキストチェックゼミを参考にする(論文リスタート生は、パネリスト参加推奨)。

★論文理論問題集だけで回さない。テキストで回転。
テキストの基礎知識で取れる問題の取りこぼしや、
論ズレ・計算の知識抜け・問題文の読み取りミスが生じやすい。

計算のためにも、テキストを大事に。

注意!

★先取り論文アクセスで23目標アクセスの「準備」をするのは厳禁。
あくまで、テキストを丁寧に復習。

(岡)本講師の
論文対策講義も
input強化に活用。

アクセス・答練で形式に慣れる。取るべき箇所を見極め、正確に解く。時間配分の練習。

- 小問ごとに25分×4問、取り切れるとしても32分で一旦止めるなど。
- 大問ごとに偏差値が付くため、1-1▶2-1▶1-2▶2-2など交互に解いてもOK。

※難しい回だと、第二問の平均点が8/50点、

1点刻みで偏差値が2ずつ下がる年も。(参考:合格者答案 p.3)

受験生の多くが取る場所を、アクセス・答練の採点講評 問別正答率で確認。

(Web School→学習フォロー→教材)

管理会計論 2022合格者のテキスト(会計学午前偏差値60.55 論文リスタート生)

答練出題回

テキストチェックゼミ
パネリスト参加者

1/30 1/4 1/2 3/4 5/6 6/13 7/22

第2章 費目別計算

第1節 費目別計算の系統

第2節 材料費の計算

1. 材料費の分類と計算方法
2. 材料費の勘定記入
3. 消費価格と消費量の把握方法
4. 消費量の把握方法
5. 実際消費価格(原則)
6. 予定価格

①材料費
・I病消費品費, 消費品費 % なる
なせん。⇒ 買入費が材料費の大半
・材料費の発生は直接、間接に分れる
・内部では買入に区別
・予定購入原価 =

②労務費
・直接工と間接工の別 → 労務費の別
・労務費 37.27.10
・副産品金? → 加算
・諸君は期間調整は必要か?
・福利厚生費は加算
・買入費と材料費の別 → 買入費
・間接労務費は加算
・内作、材料費の別

③経費
・経費の分類(基準10)
[研究2-7] 外注加工賃の処理
2. 複合経費(基準10)
3. 経費の勘定記入
4. 経費の計算(基準13(1))
5. 間接経費の計算と分類

④経費
・経費と材料費の別
・直接経費と37

第1節 第2章 費目別計算

4. 消費量の把握方法

(1) 継続記録法(原則): 購入時、消費時ともに記録をつける方法。

期首在庫	②消費量	期末在庫
①購入量	③繰上減耗	④繰上増高
	④実地増高	

継続記録法は、紛失、盗難、破損、蒸発などによる棚卸資産の減少分であり、**正常な継続記録法は間接経費とし、異常な継続記録法は非原価項目(営業外費用または特別損失)として処理する。**

(2) 棚卸計算法: 購入時だけ記録をつけ、消費量は実地増高から逆算する方法。

期首在庫	③消費量(差引)	期末在庫
①購入量	②実地増高	

継続記録法は上記の利点を有するため、基準は、継続記録法を原則としている。ただし、計算記録事務に手数を要するため、継続記録法を採用することが困難またはその必要がない材料については、**棚卸計算法によることができる(基準11(2))。**

第2節 材料費の計算

5. 実際消費価格(原則)

材料の実際消費価格は、消費された材料の実際購入価格のことであり、実際購入原価を購入量で除すことで算定される。

実際消費価格 = $\frac{\text{実際購入原価} (= \text{実際購入代価} + \text{材料副費}^{1)})}{\text{実際購入数量}}$

(1) 購入原価の計算要素と計算方法(基準11(4))

基準11(4)(一部)
材料の購入原価は、原則として実際の購入原価とし、次のいずれかの金額によって計算する。

1. 購入代価に買入手数料、引取運賃、荷役費、保険料、関税等材料買入に要した引取費用を加算した金額
2. 購入代価に引取費用ならびに購入事務、検収、整理、選別、手入、保管等に要した費用(引取費用と合わせて以下これを「材料副費」という。)を加算した金額。ただし、必要がある場合には、引取費用以外の材料副費の一部を購入代価に加算しないことができる。

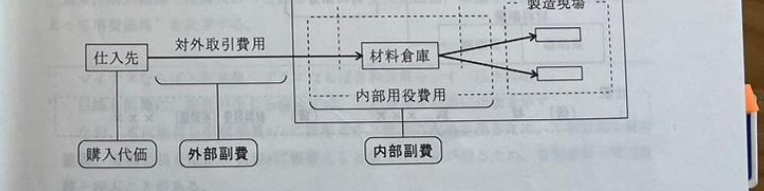
以上の内容をまとめると次のようになる。

① 購入原価 = 購入代価 + 外部副費
② 購入原価 = 購入代価 + 外部副費 + 内部副費の全部
③ 購入原価 = 購入代価 + 外部副費 + 内部副費の一部

(2) 材料副費

外部副費: 材料を自己の手許に引き取るまでの対外取引費用(対外支払を伴う費用)。基準では「引取費用」と呼んでいる。
ex. 買入手数料、引取運賃、荷役費、保険料、関税

内部副費: 材料購入に関連して発生する内部用役費用(企業内部の活動により発生する費用)²⁾。基準では「引取費用以外の材料副費」と呼んでいる。
ex. 購入事務費、検収費、整理費、選別費、手入費、保管費



① 材料副費は、実際額を配賦する場合と予定額を配賦する場合がある。
② 内部副費は、個々の材料との直接的関連を見出しがたいものが多い。そのため、基準は、内部副費の一部または全部を購入代価に加算しないことができると規定している。

自分への問題。
テキスト内容想起。

例外

財務理論

p.23 合格者のテキスト写真.

テキスト2~6章について理解不足だと、後半の章についても理解不足で断片的な暗記になりがち。

3月末にかけて講義を受け直してもOK。

納得感

必要な力

- ★ テキストのうち、講義中に論文典型論点と指示された箇所について、専門用語を適切に使って理屈の説明ができるようにする(暗記)。
何度も口頭で説明してみる。説明しにくいところには付箋を貼る。まずはざっくり。
理解が△なら質問や講義受講(LINE質問オープンチャットも活用)。

- ★ 問題文の読み取りができる。テキストのうち、どのページが問われているか？

章毎 word から 想起できるように。

- ★ 問いに対して素直に答えられる。指示に沿い、部分点を獲得できる。
【Q】Aの観点から、~Bと言われる ▶ 「Aとは~。この観点からは、本問のように言われる」

テキストにマーカー。

- ★ 法令基準集を引けるようにする。特に、収益認識に関する会計基準は引き辛いので注意。
処理・要件のほか、定義も基本的に載っている。暗記の負担も減らせる。

★後日、会計学 基準集の使い方セミナー配信予定

財務理論 具体的な進め方

- 3月末までにかけて、テキストのうち、講義中に論文典型論点と指示された箇所について、専門用語を適切に使って、理屈（「～ことから」「～ため」などの部分）を口頭で説明できるようにする。 **まずは精読・適宜講義活用**

- テキストと併せて基準集を見たら、ついでに参照可能な箇所に「法」などマークを振る。

- 答練を通じて、問いに対する答え方・問題文の読み取りを修正する。部分点を取る練習。

- テキスト目次・各章扉のキーワードから、関連論点が想起できるようにする。
一言出やすくなってきたら、論文式確認問題集を使って重要論点について想起開始（回転しつつ）。

- 論文論点について、ごく短いバージョンの解答を参考にしたい場合は、池上講師論文対策講義I回目配付「論点Q&A」レジュメを参照（「テキスト補足」以外の論点）。

※テキストが手薄になると、断片的な暗記となり、体系的な知識・理解が抜けがち。

キーワードに飛びついて論点ズレするおそれがある。

章扉wordから内容を想起できるか？

問題を見た際に該当テキストのページ見開き構成が想起できるか？こまめに点検する。

財務計算のポイント

必要な力

- ★時間配分に注意。難易度の易しい箇所を正確に解く。
アクセスや答練で、時間配分の練習。
- ★理論テキストと紐付けて押さえる。
- ★最後の2週間ほどで、問題演習と合わせてテキスト1周
確認により、ピークを合わせる。模試前に試す。

具体的な進め方

- テキスト例題について、一度一通り復習。論文アクセス日程がデッドライン。
- 総合問題形式に慣れる。パワーアップ問題や、トレーニング総合問題等を活用。
おすすめ・PDF配布
- アクセス・答練は、難易度Aの箇所を中心に復習。
(難易度Aを大きなやらかしミスなく取れば、合格点を超える)。
- 論文基礎・応用答練、論文アクセスを通じて、アウトプット練習。

財務会計 論点ごとのメンテナンス例

【ポイント】

下書きの固定化・解くべき問題の見極め
正確性(やさしみス対策)
テキストの知識維持・スピード

①論点をグループ化。

②それぞれ該当アクセス・答練を書き出す。

※下記は正確な出題回ではなく、書き込みのイメージ。

- | | |
|--------------------------------------|---------------|
| 1. 個別論点 テキスト1~4 | ...ア1-3、9、10 |
| 2. 連結(在外) テキスト5~7 | ...ア4、6、基1-3 |
| 3. 企業結合・事業分離等 テキスト8 | ...ア7 |
| 4. CF計算書(個別・連結) テキスト9 | ...ア8、11、基3-1 |
| 5. S/S・包括利益計算書・ テキスト4・7 | ...ア3、基2-1 |
| 6. 収益認識・外貨建取引
(自分の苦手な論点やテキスト10など) | ...ア10 |

★企業結合は細かい処理を忘れやすい
ため、模試・本試験前々日等に設定

③論点ごとで取り組む。

直前期は10-14日で1回

毎回丸ごと解き直しではなく、難易度Aで間違えた箇所のみ解く、
30分で難易度Aだけ拾う、解法プロセスの確認など、
毎回目的に応じて取り組み方を変える。

財務計算 アクセス・答練の復習例

＜論文アクセス復習例＞

解説冊子を
ア財(1) B46-1 ファイルに

＜ＴＡＣ＞無断複写・複製を禁じます（20年合格目標）

アクセス財務会計論第1回(論文式)解答

〔解答時間 60分〕

YO株式会社（以下、当社とする）の当期（自X3年4月1日 至X4年3月31日）に関する次の【資料】を参照して、問1～問4に答えなさい。

問1 当期の財務諸表における以下の科目の金額（単位：千円）を、答案用紙の所定欄に記入しなさい。

- ① 退職給付費用 ② 株式報酬費用 ③ 租税公課 ④ 機械装置減価償却費
⑤ リース資産減価償却費 ⑥ 利息費用 ⑦ 受取配当金 ⑧ 有価証券利息
⑨ 有価証券評価益 ⑩ 支払利息 ⑪ 有価証券売却損 ⑫ 為替差損
⑬ オプション損失 ⑭ 法人税等(税効果調整後) ⑮ 為替予約
⑯ 繰延税金資産 ⑰ リース債務(流動) ⑱ 未払法人税等
⑲ 退職給付引当金 ⑳ 資産除去債務 ㉑ その他有価証券評価差額金
㉒ 繰延ヘッジ損益

問2 [資料Ⅲ] 6. の①～③に当てはまる金額を、答案用紙の所定欄に記入しなさい。

〔資料Ⅰ〕 解答上の留意事項

1. 計算過程で千円未満の端数が生じた場合は、最終数値を四捨五入すること。
 2. 特に指示がない場合は、当座により取引が行われているものとする。
 3. 直物が替レートは以下のとおりである。
- | | | | |
|----------------|-----------|----------------|-----------|
| X 3 年 3 月 1 日 | 99 円 / ドル | X 4 年 2 月 1 日 | 87 円 / ドル |
| X 3 年 3 月 31 日 | 95 円 / ドル | X 4 年 3 月 1 日 | 88 円 / ドル |
| X 3 年 4 月 1 日 | 94 円 / ドル | X 4 年 3 月 31 日 | 86 円 / ドル |
| X 3 年 8 月 31 日 | 91 円 / ドル | 当期中平均 | 90 円 / ドル |

4. 答案用紙の記入にあたり、解答すべき金額がゼロの場合には「0」を記入し、貸借対照表における純資産の減少項目には「△」を付すこと。

5. 問題文から判明する以外の事項は考慮外とする。

一部
2回目の解き直し

初級
↓

400

3 回目

＜TAC＞無断複写・複製を禁じます（20年合格目標）

ア財(1) B46-9

【解 答】 問 1 44点+ 問 2 3点+ 問 3 2点+ 問 4 1点=50点

問 1 2点×22箇所＝44点

① B 14,815	② A 1,509	③ A 18,000
④ A 20,118 for Dep	⑤ B 8,203	⑥ A 48
⑦ A 200 for Dep	⑧ B 7,360	⑨ A 300
⑩ B 12,959	⑪ A 280 for Dep	⑫ B 4,700
⑬ A 600	⑭ C 217,533	⑮ A 2,850
⑯ C 63,840	⑰ B 7,806	⑱ A 253,500
⑲ B 8,000	⑳ A 1,729 ARO	㉑ A 455 △ 455 3507
㉒ A 520 for Dep		

問2 1点×3箇所=3点

①	A	120	②	A	49	③	A	744
---	---	-----	---	---	----	---	---	-----

問3 1点×2箇所=2点

②	A	10	③	A	735
---	---	----	---	---	-----

問4 1点

A	3,040
---	-------

初回時.
B・Cを
1問ずつ
解いて
Aは5問着
てきず。
問題を読む際、判断、時間配分を見直す

と化した難易度 A (時間があれば解けたのか試す)

★1問丸ごとの解き直しは、
基本的には行わない。

難易度Aで取れなかった
箇所を中心に
原因分析・復習。

(難易度Aを大きなやさしみ
スなく取れば、合格点を超え
る)。

分析方法…次ページ

計算科目のミス分析について

- Q. 計算問題について、目標点数になかなか届きません。
間違えた問題について、どのように復習すればよいのでしょうか。
- Q. 解説を見たら全て理解はできますが、初見で正解ができません。

A. 「なぜ初見で解けなかったか？」
特に、難易度の易しい問題について、
一問ずつ**徹底的に原因分析**を行う。

主な原因

1. **インプット不足** (覚えていない、メンテナンス不足)
2. **時間切れ** (時間配分ミス・スピード不足)
3. **やらかしミス** (自分のミスの傾向に応じた工夫不足)

難易度Bの問題 ……どんな理解があれば正解までたどりつけたか？
なぜ難易度Bになっているか？分析 (手間？論点の難しさ?)。

★間違えた問題だけでなく、正解した問題についても**周辺論点のポイント**が想起できるか復習。

参考: 会計人コースweb記事「3つのミス分析で“計算力”を高めよう！」
<https://kaikeijin-course.jp/2022/10/07/53686/>



やらかしミスと対策例

原因	対策例
①下書きを省略しすぎた	講師の下書きを参考に 過不足なく書く 。 <u>月割計算</u> がある論点は特に注意。
②資料の読み飛ばし	<u>マーカーや色ペン</u> を使いながら読む。 (短答・論文共に、問題用紙・下書き用紙には使用可能) ✓ <u>マーク</u> を資料左側に付す。
③下書きの読み間違い	数字ははっきり書く。自習時からB5などに <u>下書きを大きく書く</u> 。
④電卓の打ち間違い	打つスピードを緩める(<u>処理を思い出すスピードを速く</u> する)。 ブラインドタッチはしない。特に重要な箇所は気持ちゆっくり 1・2度だけ電卓を入れるなど。
⑤電卓や資料の転記ミス	転記時に、ペンで <u>指差し確認</u> 。電卓は体の近くで打つ。
⑥電卓を使わず暗算してミス	極力暗算はしない 。月割は指折り数えるなど。
⑦年度・決算日、税率、単位、 四捨五入、償還日・事業 供用日のチェックもれ	マーカーや色ペンを使いながら読む(問題用紙には使用可 能)。事前に計算論点チェックリスト(web school→「教材」) や、ミスを振り返る。
⑧問題文の指示をチェックし たが、解答中に忘れた	解答中の自分の目の動きを振り返り、目に入る場所に書く。 解答直前に、一旦問題用紙・下書き全体を俯瞰。

企業法 ※詳しくは、論文対策講義1回目や、答練解説を受講。

必要な力

★論点に気づける。「第一関門」。…答練の出題範囲に合わせて、テキストを精読して理解。

★説明型の場合、重要な規定の条文が基準集を見つつ挙げられる。

ex. 事前通知、決議要件、事後通知、債権者保護・株主保護の制度

★条文が、大体の位置・会社法の目次から探せる。

★テキストのうち条文に載っていない箇所を把握しており、ある程度説明できる。

※規定の趣旨は、多少自分の言葉でもOK。

具体的な進め方 1月以降配布される。論点リストとテキスト想起に活用。

● 答練出題範囲に合わせて、テキストで理解。精読。

- ・ 太枠付近の規定の理解
- ・ 論点について、図解や「問題の所在」の理解
- ・ 論証例の理解 丸暗記しない。

● テキストのうち、条文に載っていない箇所の把握。

● 答練、問題集で、問いへの答え方・作法・問題文の読み取り方を知る。

問題集のうち、重要なものはピックアップして、論文対策講義全6回で解説している。

経営学

戦略論/組織論 50点

ファイナンス(主に計算) 50点

※詳しくは講義受講。

必要な力

★ファイナンス(講義10回分)

レベルIのような難易度の易しい計算について、正確に解けるように。
問題集や答練で理解不足を発見したら、質問などで解消。

★理論(3月末までの講義4回ほど5月以降の3回ほど、全7回ほど)

問題文中で、人名がヒントとして与えられる。
キャラ付けして関連用語を想起できるように。
用語の意味を理解し、ある程度キーワードを使って説明できるように。

具体的な進め方

- 3月末にかけて、ファイナンス部分10回を受講。講義翌日に章末問題で復習。
文字・公式・グラフについて理解。不明点は質問へ。
模試までに章末問題とレベルIを一通り復習し、解けるようにしておきたい。
租税のアクセスを優先。
- 5月短答生以外は、理論部分もそのまま配信に合わせて受講。
★章末問題について、単語を見てその言葉の意味がざっくり説明できるか?をまず固める。

5月短答生は、基本的には5月短答後に理論部分を受講(全7回)。

大問ごとに偏差値が凹む原因例

全科目共通

- インプット面（理解不足/問題の題意が読み取れない/関連論点・典型論点が想起できない）
- アウトプット面
 - 問題文読み飛ばし（単位、端数処理、理論科目指示・状況把握）
 - 時間配分（特に財務・管理）
 - ①大問ごと（どちらかに70分掛けた、50分未満の大問があったなど）
 - ②大問内の時間配分・難易度の見極め

計算科目全般

- しばらく手を動かしておらず
計算ミス・スピード不足や、
慣れた問題のみ回しており、
やらかしミス多発
- 手薄な処理があった
- テキストを最近見ていなかった

理論科目全般

- 納得感を持たず断片的な暗記
- 直前期の回転不足
- 大きく手薄な論点があった
- テキストを最近見ていなかった

参考:22目標論文模試2の場合 大問ごとに偏差値が凹む具体的な原因例

監査論

全般

- 小問ごとに答案構成・解答しているため、大問全体の題意が掴めていない
(論点ズレや解答内容の重複)
- 問題文に沿った解答となっていない
(覚えたフレーズや他の問題の解答例を吐き出している)

第1問

- 四半期が手薄だった
- テキストの基礎知識が抜けていた

第2問

- 時間が足りず問題文を読めていない
- 問題文の企業固有のリスクではなく、一般論で書いているため点が伸びない
- 財務諸表項目レベルのリスクについて、紐づくアサーションを書いていない
- 問題文にある「匂わせ」に乗っていない
(ワンマン経営→財務諸表全体レベルのリスク)

租税法

全般

- 暗記・回転不足
- 時間配分
※5→8の場合、模試2時点では足切りは折り込み済み)

第1問

- 要約条文を使っておらず、答練で出たところだけをおさえていた
(答練を解いて→要約条文ゴシック付近を確認)
- 普段の問題演習時、基準集を使っていなかった

第2問

- 法人税・所得税が数日に1回で、暗記不十分
- 時間配分ミス
(所得税が15分のみ、法人税が38分未満など)
- アクセスや基礎答練の出題箇所のみをピンポイントでおさえており、テキスト周辺知識を復習していない
- 答練を重要性に関わらず満遍なく回した結果、重要論点の暗記が不十分
- 直前期もトレーニングをメインで使い続けており、総合問題形式のミスが起きる、回転が不足

参考:22目標論文模試2の場合 大問ごとに偏差値が凹む具体的な原因例

管理会計論

全般

- 時間配分、難易度の見極め・問題文の状況把握
- テキストが手薄だった ★試験前10~14日1周
- 計算で手を動かすのが久々な論点があった
- 単位ミス

管理会計

第1問

- パーシャルプランなど用語穴埋めが書けていない
(テキストが手薄、問題文読み飛ばし)
- 階梯式が久々で、時間が余っても解きにいけなかった

第2問

- 固定長期適合率が久々で×
- 個数の扱い ★最後に指差し点検
- CCC 短い・長いの選択・論述が△(テキストが手薄)
- 簡単な箇所が探せていない。
難しい時の見切りが早過ぎた(20分未満でとばした)

財務会計論

第3問

- 大問内の時間配分・見極め
(計算CFの難易度Bを取りに行つて、収益認識が時間切れ)
- 理論…CF計算書の章が手薄だった
(「損益とCFの関係」が書けていない)

第4問

- 修繕引当金の論点を手薄で、論点に気付かず
- 「構成要素」を質的特性と取り違えた
- 一旦飛ばして、戻り忘れて空欄
- 一取引・二取引基準で定義を書かなかった
- 資本項目の換算について決算時などとした

第5問

- 三角合併の問題で粘り、理論時間切れ

参考:22目標論文模試2の場合 大問ごとに偏差値が凹む具体的な原因例

企業法

全般

論点に気づけなかった
(テキストの理解が薄い、問題文読み飛ばし)
条文が引けていない

第1問

- 改正論点を手薄だった
- 焦って問題が読めなくなった

第2問

- 利益供与の条文をど忘れ
- 親会社株式の規定を忘れていた

経営学

全般

基礎知識・反復練習の不足
時間配分

第1問

- まだおさえていない章があった
- 記述問題で下線を引く指示に従っていない
- 暗記不足

第2問(ファイナンス)

- 端数処理ミス
- 公식을覚えていなかった
(論点1周が10日以上など)

- レベル2や補論を全く見ていなかった
(レベル1をおさえた上で、軽く1度は目を通す)

【MEMO】

